

鉄肥杉製品のブランドを高め 売上を伸ばすことで 社員の幸せを追求

最新の設備を導入するなど
製材業では県内有数の同社
その成長を支えるのは
社員への社長の思いと
それに応える社員でした

16



同社の鉄肥杉製品がふんだんに使われた木のぬくもりを感じる家



高嶺木材の自慢の社員

全社員を幸せにすることが会社の使命

生産量日本一を誇る宮崎の杉。中でも400年もの歴史がある鉄肥杉は、弾力性に富み、湿気にも強いなどの特長から重宝されてきました。

その鉄肥杉を中心に製材・加工を行う同社。住宅の構造材やプレカット材の販売に加え、鉄肥杉の特長を生かしたフローリング材などの商品開発にも力を入れています。

令和2年には高原町に22000坪もの新工場を設立しました。「伐採業者が市場に原木を運び、私たち製材業者は市場でその原木を購入するというのが通常の流れ。高原工場は敷地の半分を貯木場にしました。伐採業者様が直接原木を持ち込める環境を整えることで、少しでも地域に貢献できればと思ったのです」と高嶺清哲社長。業界全体の発展にも目を向けています。

父親の後を継いで令和3年に社長に就任した清哲氏が何よりも大切にしているのが社員への思いです。

建材商社福岡支店で営業をしていた清哲氏は、自身の成績も会社の業績も右肩上がりという順風満帆の日々を送っていました。そんな折り、親会社の業績不振のありを受けボーナスをカットされた

といいます。

「はじめは『なんで』という不満だけだったのですが、しばらくすると自己嫌悪に陥って、『何のために働いているのか。何のために生まれてきたのか』と自問するようになりました。そして『幼い頃から見てきた高嶺木材で働く人を幸せにするのが私の使命』という結論に至ったんです」。

そうして宮崎へ帰郷した清哲氏は、世代交代や評価制度など、頑張った人がしっかりと認められる、働きがいのある職場を目指してきました。

「私たちが行っている事業は社員を幸せにするための手段であると考えています」と熱い思いを語る清哲氏。今後も全社員が夢とやりがいを持てる会社に向けて邁進していきます。



製品の品質管理

1
point

自ら考え動く社員

一番の強みは何と言っても社員。世代交代を進めて要職に登用した若い人たちが成長を続けており、それに引っ張られるように社員みんなが自発的に動くようになりました。おかげで社員一体となって前を向いて進めるようになりました。

3
point

最先端の設備

作業効率の向上と作業員の負担軽減のために、建築する住宅ごとに必要な部材を自動でピッキングし梱包する最先端の自動倉庫やQRコードによる在庫管理システムを導入するなど最先端の設備を導入しています。

ココがスゴイ！ POINT

2
point

販売アイテムが多い

土木資材、構造材、下地材等の他に、杉材の壁板やフローリングなどの住宅の最終仕上げ製品まで製造・販売しています。そのため、販売先も幅広く流通業者様から施主様（エンドユーザー）までいらっしゃいます。



機械化にも積極的に取り組む

『全社員の物心両面の幸せを追求する会社へ』

宮崎へ帰った当時の当社は、設備投資を積極的に行い規模拡大に重点を置き取り組んでおりました。工場稼働率を上げるため、一生懸命自社製品の販売に取り組み、販売が安定し潰れない会社へと階段を上がっていると自負するようになり、それが社員の幸せへつながっていると思っていました。

しかしそれは、思い違いだったのです。

「潰れない会社だけでは、社員の幸せではない。社員の生活が豊かになり、仕事にやりがいを見いだせなければ幸せではない」と思うようになりました。

管理職の世代交代も進み、若い社員も数多く入社してくれるようになりました。

これからも社員が「高嶺木材で働いて良かった」と思えるような会社を目指していきます。

代表取締役

高嶺 清哲

Takamine Ryunosuke

1974年生まれ 〔日南市出身〕

「人のために生きること」をモットーに社員と家族をなによりも大切にしている。



木は生き物なので加工するのにも一筋縄ではいきません。でもそこが面白いところ。いつも「自分はどこまでできるのか」というチャレンジ精神を持って仕事に取り組んでいます。

製材部